

おもちゃづくりの過程に着目した振り返り

前時に引き続き、児童は、空き箱と段ボールを使ってビー玉迷路を作っていた。本時では、段ボールの特性を生かして、道の壁に当たる部分を作るというめあてで活動をしていた。始めのうちは、はさみで固い段ボールを切ることに苦戦していた。うまく切るコツを覚えてからは、効率よく作業が進み、空き箱に、道が広がっていった。

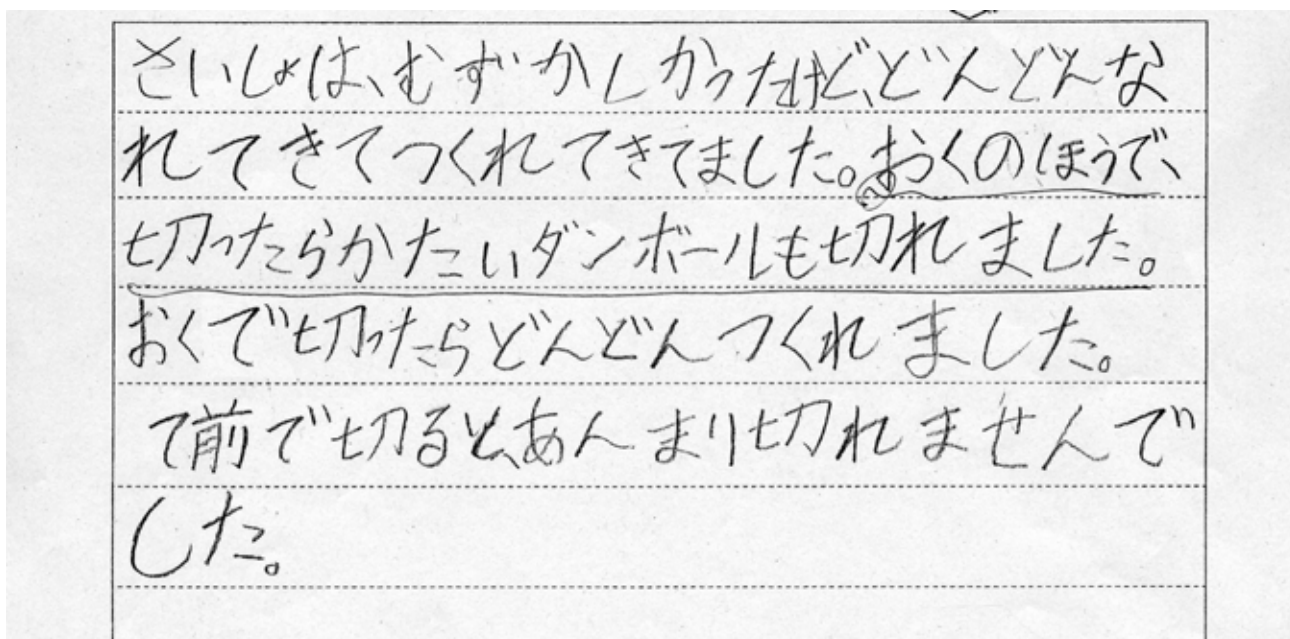


作成中の迷路

作っている最中に「面白そうな迷路ができているね。この固い段ボールがよく切れたね。素晴らしい。」と材料や道具

の使い方を称賛した。すると児童は、はさみの刃の奥を指さしながら「ここで切るとよく切れました。」と生き生きとした笑顔で説明をした。教師が、「固い物でも、はさみの刃の奥の方だとよく切れるんだね。」と言うと、児童はうれしそうにうなずいた。

児童は、迷路の出来に満足していたようであったが、学習カードには、迷路の出来栄えに関するのではなく、はさみで段ボールを切るコツを見付けたことが書かれていた。感覚的に気付いていたはさみの使い方が、教師との対話を通して言語化され「気付き」として自覚されていることを読み取ることができる。



振り返ったことを基に次の活動のめあてを考えること

この学習カードを書いた児童は、空き箱やラップのしんなどを使い、意欲的に迷路を作っていた。学習カードには、道具や材料の使い方、迷路を楽しくする工夫、活動中の気持ちなどが、具体的に記述されている。振り返ったことを基に、順序立てて次の時間のめあてを考えていることが分かる。

1 今日、してみたいこと。

いろいろなしかけをつくりたいです。

2 してみて、どうでしたか。どんなくふうができたかな。

さいしょは、しんをじょうずにきれなかったけど、うえにきりにみをいれてきたら、じょうずに、きれました。きれるかなとドキドキしながらきたら、じょうずにきれたよかったです。それから、どんぐりにかおをかいたら、とってもおもしろくなりました。さいしょは、かんたんなめいろだったけど、さかをつけたら、むずかしいめいろになりましたよかったです。

3 つぎのじかん してみたいこと。

みちはせつろをつくったので、つぎは、かさりをつきたいです。